学生自主活動ルームにおける学生支援と課外活動
—コーディネーターの視点からの考察—

石　井　智　子
辻　　多　聞
横　山　和　平

要旨

学生の自主的な活動を支援する学生自主活動ルームにおいて，平成 25 年度から 27 年度の 3 年間の来室，相談受付書記入者，課外活動参加者の集計をした。学生が参加した課外活動について，学外，学内，学生自主活動ルーム内に分類して概観する。学生のさらなる課外活動参加を促すには，活動に対して消極的な学生への働きかけと個別対応のコーディネートが重要である。

キーワード

学生自主活動ルーム，自主活動，課外活動，ボランティア，コーディネート

1 はじめに

平成 25 年度から 27 年度の 3 年間にわたる学生自主活動ルームの利用実績と課外活動参加実績の報告をする。来室学生を課外活動参加者にするための学生自主活動ルームでの日々の取り組み，特に課外活動に対して消極的な学生の参加を促し，活動に結びつけるまでのコーディネート業務について述べ，学生自主活動ルームが果たす役割をコーディネーターの視点から考察する。

2 学生自主活動ルームとは

学生自主活動ルーム（以下，自主活動ルーム）は学生の自主的な活動の支援を行う機関として 2006 年に開設された。自主活動ルームの管理責任及び業務は学生支援課が担い，企画・立案は学生支援センターが行う（山口大学 HP）。

吉田キャンパス共通教育棟 1 階にあり，就職支援室，学生特別支援室（SSR）も同じフロアに設置されている。

学生の課外活動の窓口となっており，ボランティア活動，課外活動，学生企画，他大学との連携プログラム，学生の企画発案に基づく活動に対して大学が資金を提供する「おもしろプロジェクト」などを扱っている。

3 自主活動ルーム来室数

自主活動ルームでは来室者数を，学生，学生以外の学内来室者，学外来室者に分類してカウントしている。通りすがりのような来室は，原則としてカウントされない。また，同じ学生が同日に複数回来室したとしても，全く別件での来室であれば数えるが，原則としてカウントは 1 回にしている。平成 25 年度から 3 年間の来室者数を示す（表 1）。

表 1 自主活動ルーム来室者

	来室者数	学生	学内	学外
H25	2877	2451	276	150
H26	3414	2744	485	185
H27	3095	2289	583	223

（単位：人）

来室した学生は，コーディネーターと話をして参加する活動を決めていくが，まずは学生に自主活動相談受付書(以下，相談受付書）に必要事項を記入してもらうようにしている。相談受付書を示す(図1)。

自主活動相談受付書

(ふりがな) 氏名	男 ・ 女	学籍番号	
学部/	学科/	学年/	
電話・携帯番号/	― ―		
メールアドレス(PC)	@yamaguchi-u.ac.jp		
メールアドレス(携帯)/			

(注)記入される個人情報データは、自主活動相談の目的にのみ使用し、学生自主活動ルームが責任をもって管理いたします。

【担当者記入欄】

受付日時: 平成 年 月 日
受付者:
受付状況: 来室 電話 メール
相談内容:

図 1 自主活動相談受付書

相談受付書の記入は義務付けているものではなく，記入せずに自主活動ルームを利用するケースもある。掲示物の閲覧，地域情報の広報物を得るための来室，自主活動ルーム内で開催されている学生企画への参加などがあげられる。また「おもしろプロジェクト」や愛媛大学を主幹校とする文部科学省認可 19 大学連携事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシッププログラム」にかんする問い合わせについては，学内の専任担当者に学生対応を引き継ぐ。相談受付書記入に関わらず，定期的な来室学生は年間 250 名くらいである。

同じ学生が「また行きたい」,「行けば何か見つかる」と複数回来室したいと思うような雰囲気作りを行い，成長や変化を続けている学生の興味・関心をひくような課外活動紹介を持続していくことが重要である。定期的な来室学生数が約 250 名もいることはこうした雰囲気作りの成果、学生支援の成果の一つである。

3.1 学年別集計

相談受付書記入者の学年別集計を示す（表 2)。

表 2 相談受付書記入者学年別集計

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	M1	M2	不明	合計
H25	69	58	64	26	0	1	4	1	5	228
H26	49	60	85	42	2	0	0	3	7	248
H27	54	42	73	29	0	2	3	2	15	220

（単位：人）

年度によって若干の差はあるが，概ね 3 年生の来室が最も多いように感じられる。「公務員志望のため」,「教員になりたいから」,「エントリーシートに記入できるような課外活動をしたい」といった就職活動を意識した来室が多く見られる。「入学してから何もしてこなかった」,「ボランティア活動を一度もしたことがないから」といったように，学生生活を振り返って相談に来る学生もいる。課外活動にかけられる時間が限られている場合もあり，学生ニーズがどこにあるのかを的確にとらえ，適切な活動へとコーディネートすることが求められる。

3.2 学生来室数と活動参加者

コーディネーターの主な役割は，自主活動ルームに来室した学生を「活動者(課外活動参加者)」にすることである。学生来室者数とコーディネートにより成立した課外活動参加者数を示す（表 3)。

表 3 学生来室と課外活動参加者

	学生来室	課外活動参加者
H25	2451	282
H26	2744	466
H27	2289	540

（単位：人）

学生には 1 回の活動では終わらせず，様々な分野の課外活動を経験するようにすすめている。紹介する活動のなかには，登録すると学生に直接活動依頼がいくシステムのものがあり，その場合登録後の活動回数は把握できない。そのため自主活動ルームでの活動参加カウントは登録作業の 1 回のみである。

4 課外活動例

学生が参加した課外活動について，その活動場所により，学外，学内，自主活動ルームの 3 つに分類して概観する。

4.1 学外での活動

外部団体から課外活動の広報依頼を受けた場合，学内選考機関による選考を行うこととしている。この機関にて問題ないと判断されたもののみを学生に広報している。図 2～5 は，自主活動ルームを通して学生が参加した課外活動の一部である。

図 2 長門海岸清掃ボランティア

図 3 下関海響マラソン医療ボランティア・通訳ボランティア

図 4 世界スカウトジャンボリーブース出展

図 5 内閣府交流事業山口県プログラム

4.2 学内での活動

学外からの依頼を待っているだけでは学生ニーズに応えきれない。新たな活動の場を開拓するのもコーディネーターの役割である。そのため学内の他部署と連携を取りながら学内の課外活動の情報を収集して,学生の活動の場を広げている。活動にやや消極的な学生は学内ボランティアから始めて徐々に活動域を広げていくようサポートしている。学生が活動参加に関して強い不安感を抱えているであろうと思われるときには，コーディネーターが活動場所まで同行することもある。コーディネーターも同じ活動に参加し，体験を共有することもある。これにより活動依頼者である先生方とすぐに意見交換ができるようになり，事後の学生サポートと指導にたいへん有益である。これまでに学内ボランティア，学内課外活動として留学生センター国際ボランティア，就職支援室学生サポーター（1，2 年生対象），特別支援室（SSR）研修会参加などの活動を紹介してきた。なかでも,「初めての活動」として紹介することが多いのは留学生の日本語会話パートナーのボランティアである。質問事項が準備されており，自ら発言することが難しい学生が発問の負担なく参加できるため，課外活動の導入に適切であると思われる。図 6 にその活動の様子を示す。

図 6 日本語会話パートナーボランティア

4.3 自主活動ルームでの活動

学生の主体的な意識を育てるため，学生が企画し，主催する学生企画を支援している。企画，運営の相談にのり，自主活動ルームを活動スペースとして提供している。短期留学生のための放課後アクティビティの提供として始めた「サマープログラムおもてなし企画」は平成 25 年から毎年夏の定番の学生企画となっている。物づくり，日本語アニメ鑑賞会，「カフェにおでかけ」,絵本の読み聞かせ,かるた遊びなど多様な企画を支援してきた。図 7 に活動の様子を示す。

図 7 サマープログラムおもてなし企画

週に 1 度の開催を続けている「留学生との交流ランチ会」は主催者が代わることもあるが，3 年目を迎える学生企画である。その活動の様子を示す（図 8)。

図 8 留学生との交流ランチ会

5 実践と取り組み

5.1 地元意識を育てる

山口大学は他県出身者が約 7 割を占めており，学生にとって山口という地域が馴染み深いとは言えない。地域貢献，地域の課題解決が言われて久しいが，大学生の生活の中で地域色を味わう要素は少ない。それゆえ自主活動ルームでは地元の情報や情報誌が来室者の目につく場所に掲示，配架するように心がけており，定期的に閲覧に来る学生もいる。配布している地域広報誌，情報展示状況と自主活動ルーム内の様子を示す（図 9, 10, 11)。

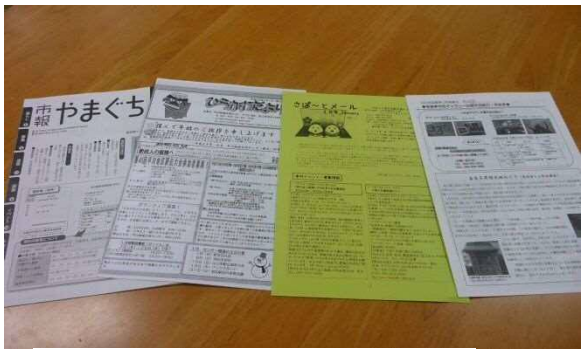

図 9 市報，ひらかわだよりなど

図 10 地域情報コーナー

図 11 自主活動ルーム内の様子

また，地元にお気に入りの場所を見つけに行こうと始めた「山口遠足」も自主活動ルーム定番の企画となっている。活動の様子を示す（図 12,13)。

図 12 維新の志士が歩いた道をたどる

図 13 伊佐セメント工場石灰石発掘現場

5.2 消極的な学生へのアプローチ

より一層の学生の課外活動支援において，活動に消極的な学生を「活動者（課外活動参加者)」に変えることが重要になる。自主活動ルームには「困り感」を抱える学生の来室も多い。多様な観点から学生支援を充実させるため,就職支援室,学生相談所，特別支援室，保健管理センターとも連携をとっている。自主活動ルーム入口近くには共通教育休講掲示板がある。不安な様子や特徴的な動きがある学生には少しずつ声をかけて顔見知りになっていき，自主活動ルームが気軽に立ち寄れる場所であることを伝えるように心がけている。同時に，自主活動ルームで開催している学生企画や学内活動を紹介して学生の活動域が広がるようにもしている。学生の関心によっては，学内の他の部署へ案内し，そこの学生スタッフとして活動することをすすめたこともあった。また，就職支援室へ案内し，インターンシップや企業説明会への参加をすすめたこともあった。

本学の学生の特徴の一つとして，大学近くに住居を構えることがあげられる。多くの学生は日々の暮らしを大学と下宿の短い動線の中で完結させている。来室学生の中には何か月も椹野川を越えずに過ごしている学生が多数存在する。日々の学生の様子の聞き取りによると，課外活動に対して消極的な学生の動線はとても単純で，その行動範囲は極めて狭い傾向にある。そのような学生への働きかけとして,まずは学内から動線を広げさせ,複雑化させていくことをコーディネーターとして意識的に働きかけている。積極的になりなさい，と言っても学生たちはすぐにそうなれるものではないが，日々の学生生活のなかで成長を促す働きかけは重要である。動線を意識した実践と効果については，別の機会にまとめて報告したい。

6 展望

日々個別の学生対応をしながら，外部団体の調査，主催者と学生との調整を並行して進めていくコーディネート業務には，高い調整能力とコミュニケーションの力が求められる。多くの学生にサポートが行き届くようにするためには，常に改善を続ける努力が必要である。

正課授業で正課外活動を取り入れることによって，学生時代に一度も正課外活動を経験しなかったという学生がいなくなることは可能であろうし，それは大変意義のあることであると考える。学生の選択肢が豊かになることに大いに賛同する。

学生ひとりひとりに寄り添って，初めの一歩になる活動を成立させていくのは時間のかかることのようだが，そのアプローチは決して遠回りではない。活動により自己肯定感が高められ自ら動き出すようになると学生の主体性が増し，それほど支援する必要性がなくなる傾向にある。その学生に合せてしっかりサポートし，課外活動へとコーディネートすることが重要だと考える。

（学生支援課　コーディネーター）
（学生支援センター　講師）
（学生支援センター長）

謝辞

大学教育機構内の各連携部署には，自主活動ルームの運営にあたって多大なるご協力をいただいている。前学生支援センター長宮田浩文教授と前学生支援課長杉山美由紀氏には学生の課外活動を暖かく見守って頂き,有益なご指導を頂いた。本稿をまとめるにあたり，学生支援センター松岡陽子氏に的確な指摘と，身に余る励ましのお言葉を頂いた。記して謝意を表する。

【引用】

山口大学HP,「自主活動ルーム関連組織図」, http://ssct.oue.yamaguchi-u.ac.jp/ssc_jishukatsu_gaiyo.html）,2017年1月26日閲覧.